

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	1190900199		
法人名	グリーンライフ株式会社		
事業所名	グループホームグリーンライフ栗橋		
所在地	久喜市栗橋1342-1		
自己評価作成日	令和7年1月31日	評価結果市町村受理日	令和7年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	東京都練馬区東大泉3-37-2
訪問調査日	令和7年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景に囲まれた平屋建てで廊下が40メートルもある長が一い建物です。廊下を歩いたり、移動時は車いすで自走したり、歩行器や杖で歩いたり皆それぞれです。施設の周りは、春は田植えをした後、緑一色に染まり、秋には稲穂が黄金に輝き、絶景です。入居者様もそんな景色が大好きです。食事は毎食職員の手作りなのでいつも「美味しい！」と評判です。食事形態も自己摂取できない方や糖尿病等個々に合わせてミキサー食にしたリトミ使用の方もいます。皆さん食べることが大好きなので毎食の食事やおやつは何よりも楽しみにしています。排泄は2時間おきに声掛けや誘導をしてパッド削減にも力を入れています。冬季になると新型コロナウイルスやインフルエンザもあちこちから聞こえてきますが、以前ほど神経質にならず介助ができています。日常とは違うイベントは皆さん大好き、大きな声で歌ったり、楽器を使ったり、手を打ったりしてボランティアさんの協力のもと、いつもと違う変化を楽しんで気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

●年度において行事計画を立案し、誕生会、花見、クリスマス会などが実施されています。お寿司やラーメンなどの外食・音楽会への参加についても利用者の楽しみの一つとなっています。
●手作りの食事提供にこだわり、手をかけ、かつ品数が多く並ぶ食卓となっています。利用者も食器を拭くなどできることにて家事参加に努めています。
●入居時に望む支援について確認し、終の棲家としての役割を果たしています。機械浴槽を整備しており、協力医療機関と連携し、終末期の支援に対応しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関に掲げ職員が意識できるようにしています。朝夕の申し送りでも唱和しています。	法人の理念、ホームの食事・暮らしへのこだわりについてホームページやパンフレットにて周知している。前法人からの流れを継続し、常勤職員を中心に安定した運営にあたっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つながりの一歩として近隣のゴミ拾いをしたり、イベント等声掛けしています。運営推進会議の時は、参加の呼びかけに応じてくれ、ボランティアさんのグループが度々訪れたり年4回も訪れるグループもあります。	ボランティアの来訪など地域とのつながりを意識した運営がなされている。居宅介護支援事業所・医療機関との連携はさらに進めていく意向をもっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回は内部で認知症の研修を行っています。年1回包括支援センターさん主催のオレンジカフェを当施設で外部の方や家族の参加で開催し認知症の理解を深めています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で年6回ホームの様子や健康状態・身体拘束の実態について報告しています。活動報告やイベントの参加も呼びかけ、ご意見ご希望等もお聞きしサービス向上に心がけています。	地域包括支援センター、民生委員、家族、近隣住民等の方々を招待し、定期開催がなされている。生活の様子などの報告などホームの現状を伝えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には介護保険係や地域包括センター職員に毎回参加して頂き、活動の報告やご意見を頂いています。相談等ある時は、電話や役所に出向き行っています。	利用者の生活安定のため、協働した取り組みがなされている。手続きや相談をするなど関係構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回の身体拘束廃止委員会を開催し職員全員が記録を確認する事となっており押印された議事録を本社へ送って確認しています。	身体拘束廃止委員会の開催により適切な支援の確認がなされている。言葉遣いなど不適切な発言がないよう管理層を中心に指導に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同時に毎月1回委員会を開催し同様に職員全員の確認印が押された議事録を本社へ送っています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修により制度を理解する機会を作っています。成年後見人を利用されている方がいる為、不明な点は後見人さんに聞いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は2人で立ち合い、契約書は全文読み上げ十分な説明をし、時間をかけています。疑問点の有無を必ずお聞きし、十分な説明と理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常からご利用者の状況を密に報告しコミュニケーションをとっています。、電話や面会時に気軽に話して頂けるような雰囲気を作っていますが、施設ではすべての要望に答えられない事も有ります。	家族へのアンケート、ケアプランへの意見など意向の確認にあたっている。利用者および家族望ケア実践のため、傾聴の姿勢をもって運営に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、全体会で困っている事、改善した方が良い点について議題として出せるようにしています。	毎月のカンファレンスは、法人の決定事項伝達、利用者の支援方法討議などがなされている。話し合いの結果は議事録におさめられ、保管されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が年度始めに目標を立て提出する事となっており、半年に一度目標達成に向けた評価と面談を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行う法定研修と共に役割に応じた実践研修の機会が法人により提供されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の複数の事業所にて会議があり運営や経営に向けた話し合いを行っている。同業者を訪問して相互の状況を伝えあいネットワークづくりをして交流を図り、協力体制を作っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が表現しきれない部分は、ソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ご家族から情報収集を行い、会話の糸口を探り信頼関係を構築していますがプライバシーにこだわる方もおり、聞けない部分もあります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時、ご本人の実態調査時、入所時、入所後に、ご家族との面談の時間を設けさせて頂き、信頼構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当の介護支援専門員に情報提供を頂いたり、実態調査やご家族との面談時に得た情報のもと、ご本人、ご家族の意向に添ったサービスを提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能に応じた役割を分担し、安全面に配慮した支援をしながらご利用者、職員が同じ目線に立ち、笑顔や笑い声の耐えない心地よい暮らしを実践しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化があった時は密にご家族に報告しています。定期的に面会される方もおりますが、面会の少ない方もおります。毎月個人便りをお送りして、近況をお知らせしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がご自宅で使っておられた家具やアルバム、時計、仏壇等持参して頂いています。入所者様によっては、年賀状や誕生日カード、生花等届いたり、友人が自由に面会される方もおります。	衣服や入浴機会など入居前の習慣を大切にしながら支援に努めている。利用者と家族のつながりが維持されるよう面会等支援にあたっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんが毎日フロアーに集まり、会話をしたり、体操をしたり、歌をうたったりのレクレーションを行い、他者と関わって頂いています。意見の合わない方もいるので席替えや声掛けしながらより良い関係を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型なので、ご近所の方が多く入所されているので退所後もご家族が近況を知らせて下さる方もおります。いつでもご相談や支援の対応に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員がご本人との会話の時間を心がけています。その中で、希望や意向をくみ取り、ご本人が表現しきれない部分はご家族からの情報収集で補完してサービス計画書に反映しています。	アセスメント・ケアプラン等の情報はファイリングされ、確認と保管がなされている。利用者ごとの特性を踏まえ、話し方を変える・意向や意思の確認をするなど工夫に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入所当初はソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ご家族から情報を得ていますが、生活していく中で、ご本人から得られた情報は日々の申し送りやケースカンファレンスで出し合って把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を把握して対応、介護記録に記録し日々申し送っています。ケアカンファレンス時にも現状状況を収集しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時に複数の職員で2, 3か月に1度又は随時状況に応じて行っています。提携医師は月2回の往診時に健康上の留意点を、ご家族には電話や面会時に意向の確認をして介護計画に反映しています。	経験豊富な計画作成担当者により、利用者・家族の意向を踏まえたケアプラン策定に取り組んでいる。利用者の重度化が進む中、できることに着目した・安全を優先した目標設定に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人との会話の中で日々の様子や気づきを記録しますが詳細の記入には時間の不足があります。毎日の申し送りや、カンファレンス時に共有しながら新たなサービス計画書を作成。サービス計画書をファイルにも転記して実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望を第一に考えています。歩きたい時、行きたい方向へ歩いて頂く等、抑止のない介護を目指しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々の施設訪問が解禁になり少しづつ訪問される事になりました。ボランティアさんの日常と違う変化を皆さん楽しんでいきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導で医師と薬局と提携、月2回の往診の他、緊急時の往診、薬の処方、他、歯科医師や歯科衛生士の往診等適切な医療を受けられるように支援しています。	内科、歯科、マッサージ、看護などの訪問機関を活用しながら利用者の健康管理に取り組んでいる。排せつの状況報告などから処方や指示をもらい、コントロールしながら体調管理を進めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の暮らしの中で、変化があった時は非常勤看護職に相談したり、介護支援専門員や介護職員が提携医師と連絡しています。、看護師は夜間勤務はないので緊急時はコールセンターが対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当の看護師、医療ソーシャルワーカーにも定期的に電話や面会等で状態把握に努めています。施設の受け入れ態勢についてもお伝えし、円滑な再入所に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	提携医師より許可がでない医療処置が生じた場合は終末期ケアは困難です。施設での終末を希望する方も増加し提携医師の判断で対応できる範囲であれば、ご家族と話し合いを持ち、重度化や終末期でも対応しています。	入居時に望む支援について確認し、終の棲家としての役割を果たしている。機械浴槽を整備しており、協力医療機関と連携し、終末期の支援に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルで研修を行っています。体調の変化があった時はその時の対応を日々申し送りし家族に報告したり、医師にも早い段階で報告し指示を仰いでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を定期的に行い、マニュアルでも研修しています。	自然災害、夜間帯発生などの想定のもと避難訓練を実施している。地域性・利用者の介護度などを踏まえた効果的な訓練方法を模索している。	平屋建ての特性から水害時の対応を課題としている。退避のタイミング、利用者に適した避難先など継続審議事項として認識している。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を尊重し入所者様と全職員が同等の立場に立って介護支援をしています。スピーチロックと言われる言葉は使わない様何度も研修してますが、時にグレーゾーンが見受けられます。	利用者の尊厳を保持しつつも、硬軟取り混ぜたコミュニケーションにより利用者の情緒安定をサポートしている。利用者との心の壁をつくらぬよう工夫に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員がご本人との会話する中で、1人ひとりから思いや希望をお聞きして、自己決定に至るよう努め、反映に心がけています。好物を聞くと返答があるので、誕生会等で反映していますが、中には返答できない方もいます。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人で孤立しないように、日常生活動作が低下しないように、毎日の体操の声掛け、又ご自分のペースで役割をもった生きがいのある楽しい生活が送れるよう援助しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族が持参した気候に合わせた服装や身だしなみを整える介助、洋服のコーディネート等支援しています。ご自分で好みの洋服を選択する方も何人かおられます。寒がりの方が多く、何枚も重ね着して汗をかいている方には声掛けします。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事後の茶碗拭き等、残存機能や能力を勘案してできる事はして頂いています。お誕生会やイベントがある時は、皆さんに好物をお聞きして、希望に添うよう工夫しています。役割も徐々にできなくなる方が多いです。	手作りの食事提供にこだわり、手をかけ、かつ品数が多く並ぶ食卓となっている。利用者も食器を拭くなどできることにて家事参加に努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者様には基本同じ物を召し上がって頂いていますが、糖尿病等の病気や体力、身体状態に合わせて分量や食事形態を変えています。食事や水分にとろみをつける方が増えています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自分で出来る方は行って頂いています。義歯の取り外しやうま歯磨きのできない方は介助しています。舌の汚れがある方は歯磨きのできる方でも介助しています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的声掛けや日中2時間おきのトイレ誘導介助でパッドの使用量削減をしています。訴え時や定期でトイレ誘導しますがトイレでの拒否が強い方もいるのでタイミングが難しいです。	排せつの記録を整備しており、間隔や状態を確認しながら支援に努めている。特に夜間帯は装具の変更、ポータブルトイレの使用など状況を考慮し、一人ひとりに合わせたケアと対応にあたっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい手作りの食事と十分な水分補給の声掛け、便秘の解消としても体操は毎日行っています。3日以上便秘時は、便秘薬を検討し対処しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて基本的に機械浴をしています。ご自分で洗身出来ない部分を介助しています。拒否がある場合は声掛けを行い強い拒否がある場合は清拭したり他日に行ったりしています。	設定の曜日に拘らず、利用者の意思を尊重した入浴支援に努めている。機械浴槽を装備しており、利用者の重度化に対応した清潔保持を可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常、フロアで皆さんが過ごされますが体調不良や寝不足の方は昼間でも居室で寝て頂いたり、テレビを見ている方もいます。夜間頻尿の方もいるのでご本人、職員もつらい所です。提携医師と連携を取り眠剤を服用する方もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を介護日誌に挿入して、いつでも確認できるようにしています。往診後は、往診の様子や、薬が変わった方等1パットに打ち込んで皆で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや体操は皆さんで毎日実行しています。残存能力に応じて食事の後片づけ、洗濯物干しやたたみ等出来る方はして頂き、役割を持つ事で張りのある生活を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や知人と外出する方もおります。施設でイベントを行いボランティアさんを招いて家族と共に楽しんで頂く回数も多くなっています。庭に出てお花を摘んできて、テーブル上で皆さんと眺めてほっこりしています。	年度において行事計画を立案し、誕生会、花見、クリスマス会などが実施されている。お寿司やラーメンなどの外食・音楽会への参加についても利用者の楽しみの一つとなっている。	コロナ禍以降通常の生活に戻りつつあるものの、利用者の楽しみや気分転換としてのイベントの増加を目標としている。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の施設なのでお金や貴金属の管理はトラブル防止のためしていません。1人での買い物はしていませんので、職員との外出時に買い物したり、化粧品等を職員に依頼する方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昼も夜も、同じ事を何回もかけてきていると聞きます。基本的に携帯はお預かりしていません。電話を渡すと、電話口でご家族とお話しされる方もおります。ハガキ等が届いた時は、職員が読んでご本人に渡しています。手紙を出す方は今はいません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はフロアで過ごしているので、知人や職員がお花を持参して数人に生けて頂いてほっこり眺めています。日当たりが良い場所では採光に注意してカーテンで対応しています。職員が四季の行事を年間を通して計画して季節感を取り入れています。	自室ではなく、リビングを中心とした日中活動となっている。訪問調査当日も塗り絵などを楽しむ姿やゆったりとくつろぐ様子を垣間見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話の出来る人同士で席を隣にしたり、近くにして会話して頂いています。1人ひとりの居室があり、自由に出入りして休んだり、テレビを見ている方もおりますが、入室してもすぐ皆さんのいるフロアに戻ってきてしまう方が多いです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理タンスやベッドはホームで用意していますが布団等は持参して頂いています。写真や時計、ラジオ、仏壇等ご自分が使用していたものはお持ち頂き、家にいる時と変わらない雰囲気作りを心掛けています。	居室担当者を定めず、ホーム全体で利用者全体の支援にあたっている。プライベートなスペースを確保し、自宅の状況に近づける・安全な暮らしとなるよう夜間帯の見守りや支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は2ユニットで木造平屋造りです。40メートルと長い廊下を反復運動したり、トイレ等移動時は車椅子で自走したり、歩行器で歩く方、職員の手引きで歩く方、様々です。環境整備に配慮し安全を心がけて、下肢筋力低下の防止を心掛けています。		

(別紙4(2))

事業所名： グリーンライフ栗橋

目標達成計画

作成日： 令和7年4月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する期 間
1	35	自然災害や夜間想定を含め年2回避難訓練を実施しているが、実際の避難には多くの人手と時間が必要になると予測される。 特に水害は平屋の特性上課題となる。 地域の方や近隣施設などと具体的な協力体制を整える必要がある。	利用者様に適した避難所を確保するために 地域や関係先と関係を構築する。	避難訓練は色々な被災を想定し行う。 地域の方やご家族にも避難に参加していただく。	12ヶ月
2	49	外出支援についてコロナ禍で減少したまま、増やす事ができていない。	外出イベントを計画し、安全に利用者様が 楽しめるようにする。 イベントや行事はマンネリ化しないようにア イディアを出し合ったり、新しいボランティア さんを探したりし、楽しみ方を増やす。	毎月の行事担当者を決め、早くから計画準備 にあたり、安全に楽しく実施できるようにする。 外出イベントを2か月に1度企画する。 イベントには地域の方も招待する。	12ヶ月
3					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。